

中山間地域における多機能集約型のモビリティサービスの構築（愛知県 豊田市）

【豊田市、MONET Technologies】

◆地域の課題

- ヒトの移動：高齢化による人口・担い手の減少により公共交通サービスの維持が難しくなりつつある
- モノの移動：高齢化した農家による農作物の集出荷、配達先数の減少による宅配業者の負担増加、学校給食の配達業者の撤退

- 複数移動手段活用時の利便性
- 公共交通・道路の混雑
- ☑ ラストマイルの移動手段不足
- ☑ 高齢者等の移動弱者の増加

METI「新しいモビリティサービスの活性化に向けて」より引用

◆将来構想の概要

- 機能集約(交通・商業・医療・宅配など)や同業者間が横断的な連携を行える体制を行政として構築することで、多機能集約型のモビリティサービスを展開し、地域サービスの向上・維持を図り持続可能な地域作りを行う
- 具体的にはヒトの移動（新モビリティ・AIシステム導入・自動運転）、モノの移動（貨客混載の地域バス）、MaaSプラットフォームの検討を行う

◆実証実験の概要

- ①地域バスへのデマンドシステムの導入実証（実施済）
→ヒトの移動は実施済。今後はモノの移動との連携により有効性を検証
- ②宅配業者との連携によるバスの貨客混載化（実施済）
- ③パーソナルモビリティの導入（実施済）
- ④自動運転実証の実施（実施済）

- カーシェア
- デマンド交通
- ☑ マルチモーダルサービス
- ☑ 自動走行車の活用
- ☑ 貨客混載
- ☑ ラストマイル配送無人化
- 移動サービスと周辺サービスの連携

METI「『IoTやAIが可能とする新しいモビリティサービスに関する研究会』中間整理」より引用

- ◆対象地域
 - 実証実験は、豊田市の中山間地域（にて実施
 - 将来的には、MaaSプラットフォームを構築し、豊田市域内外への展開を目指す



- ◆サービスモデル
 - デマンドシステムを導入した地域バスを軸とし、人の移動だけでなく、モノや地域サービスの移動も集約した多機能集約型のモビリティサービスを展開

